

ワンちゃんの去勢手術の流れ

当院では、清潔で正確な手術を行っております。



でも、去勢手術って具体的にどうやるの？
全身麻酔って聞くと、少し不安です・・・

★手術に備えて

麻酔の安全性を高めるため、手術は胃が空っぽの状態で行います。

ご飯は前日の17時くらいまでに食べ終わらせて下さい。水は夜まで飲んでも大丈夫ですが、真夜中から控えてください。手術当日は朝から絶食・絶水です。

麻酔中に吐いたら大変！お腹がすいても我慢、我慢！



★手術序盤の流れ

まずは注射で鎮静状態にします。そして気管にチューブを挿入し、ガス麻酔で維持します。ワンちゃんが覚醒するまで、心拍数、血圧、血中酸素濃度、呼吸などをモニターでチェックし、記録します。(右写真)



麻酔が安定したら、毛刈りをします。毛による汚染を防止するため、切皮箇所を中心に広めに刈ります。その後、入念に消毒し、術野以外の部分はドレープと呼ばれる布で覆ってしまいます。こうすることで毛が舞い上がったり、術者が消毒していない場所に触れて汚染されることを防ぎます。



切開部位(毛刈り済み)



消毒の様子



ドレープで覆い、準備完了

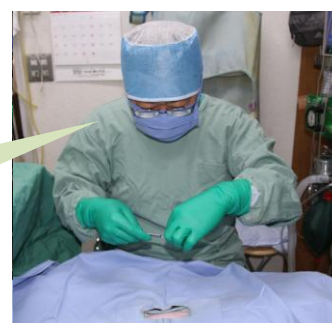
一方、術者は手や腕を洗ったあと、滅菌手袋をつけて手術を行います。

ここまで順調に作業を進めても15分ほど要します。

去勢手術の場合、麻酔時間のほとんどを準備のために費やします。

(院長コメント)

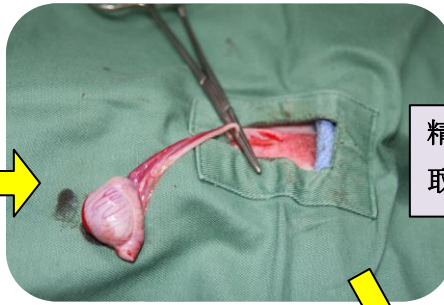
頻繁に行う手術ではありますが、安全かつ確実に
行っています。



★去勢手術（手術時間は5分程度）



皮膚を数センチ切開し、片方の精巣を押し出します。

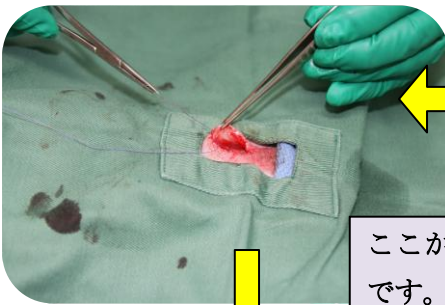


精巣を包んでいる膜を取り除きます。

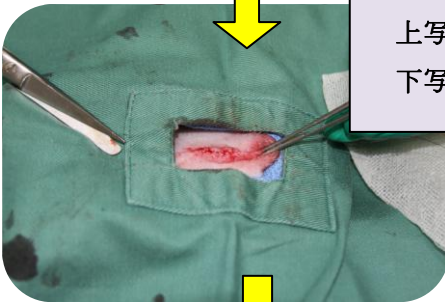


血管と精管を糸でしっかり結札して切り離します。

もう一方の精巣も同様に取り出します。



ここからは傷口を閉じていく行程です。当院では二重に縫合します。まず皮膚の内側を縫います。
上写真：縫い始め
下写真：皮内縫合完了




最後に傷口に消毒薬を塗り、テープで塞いで手術終了です。
もしワンちゃんがテープを舐めはがし、外側の糸を外してしまっても、傷口が開くことはありません。もっと簡単な縫合で済ませる動物病院もありますが、相手は動物ですので当院では手間を惜しみません。

次に皮膚の外側を縫います。



縫合糸と費用の関係
縫合の際、当院では2〜3ヶ月で溶けてなくなる吸収糸を使用しています。
非吸収糸は吸収糸より安価ですが、生涯体内に残り、結節（しこり）の原因にもなります。
手術費用も重要ですが、手術の質は維持したいものです。



当院で使用している吸収糸

見えないところも
見えないところも
手を抜きません

★術後管理

麻酔を止めるとすぐに目を覚ましますが、意識が完全に戻るまでモニターと呼吸の管理を続けます。状態が落ち着いたら入院室に移し、退院するまで観察します。

退院当日は消化管がまだ半分眠っていますので、水のみ与えてください。翌日から、普段の半量の食事を食べさせてください。休んでいた胃に負担をかけないように、様子をみながら1日かけて普段の食事内容に慣らしていただきたいと思います。

また、抗生物質の投与も忘れずに行ってください。術中の感染はまずありませんが、ワンちゃんたちは「傷口を清潔にしよう！」とは考えてくれませんので、人間が術後感染を予防してあげなければなりません。

抜糸までの期間、特に行動を制限する必要はありません。

※まれに、排尿時の姿勢や歩き方がぎこちなくなるワンちゃんがありますが、多くは術後の違和感によるものです。

去勢後は、体重が増えやすくなるから気を付けてね



★抜糸

術後1週間～10日で抜糸をします。ワンちゃんが自分で糸を全て外していても、傷跡の状態を診ますので再度ご来院いただきます。

ご不明な点がございましたら、いつでもご相談ください。

ケン動物病院

1 精巣下降と陰睾

生まれたばかりの子犬の精巣は、まだお腹の中にあります。精巣は他の臓器より熱に弱いので、生後数週間のうちにお腹から出て「陰のう」とよばれる袋に収まり、外気によって冷やされます。これを精巣下降といいます。

ところが、精巣下降の途中で、内股やお腹の中に精巣が留まってしまふことがあります。この状態を陰睾(あるいは潜在精巣、停留精巣)といいます。

陰睾犬では正常犬と比べて、精巣腫瘍になる確率が非常に高くなります。早期の精巣摘出をお勧めいたします。(※)

※片側性・両側性に関わらず、一般軟部外科手術扱いになります。去勢手術としてはお受けできません。

※費用は精巣の潜在部位により異なります。